

多々良川ゆめプラン事業2009	記録者	山内
わくわく体験事業活動記録書	開催日時	平成21年12月6日（日） 13:00 ~ 16:30
	開催場所	呑山観音寺付近
団体名：多々良川リバースクール	参加人数	30名

今回のわくわく体験の概要：長野県から日本エコミュージアム理事・日本自然保護協会参与 今井 信五氏を招いて里山自然観察会とセミナーを実施。

参加者の感想：聴取していません。

活動団体の感想：自然観察会では、ゲーム感覚で家紋の図案になっている植物をさがしをした。その植物はオオバコであったが、オオバコは車前草とも呼ばれ、車や人・動物に踏まれても平気で、靴の底などに種をつけて移動して子孫を増やす。オオバコは人や動物が行き来するところに生え、人と深いつながりがあることなど、オオバコ一つから改めて自然の仕組みや人と植物の関わり方など自然観察会の真髄にふれた。

セミナー：自然保護は自然観察から始まる。「よく見る（観察）→観察したことを分かち合いたい（観察会）→分かったことを地域に生かし活動する（自然保護）そして自然保護の目標をたてて活動を次世代に引き継いでもらうことが大切であることがわかった。

環境教育は、同時に自然環境のために行動できる人を育てるということである。自然観察のやり方と態度としては、まず体験をし、五感を使い、自然の仕組みや人と自然のかかわりを見ることである。そして最後に地域の自然に目をやることで、地域の文化や町の再発見につながり、自分の町に何があるのか、何を活用し行動できるのか、何を保全・継承していくのか、それらを評価することによってまちづくりが行われていくことが分かった。

